

(ご参考)

マツダ株式会社
2020年3月期 通期 決算発表
主な質疑応答

1. 通期決算実績について、新型コロナウイルス感染拡大による影響も含めて説明してほしい。

2020年3月期 通期のグローバル販売台数は、対前年9%減の141万9千台となりました。長期にわたる主要市場の需要減に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により市場環境が急激に悪化した中国、経済の低迷が続くオーストラリア、ASEAN市場などで販売が前年から大きく減少しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響による販売減少は、グローバルで約6万台とみえています。

連結売上高は、対前年4%減の3兆4,303億円となりました。営業利益は、対前年47%減の436億円となりました。販売費用の抑制や単価改善、コスト改善などの増益要因があった一方で、主要通貨の円高進行による為替影響や成長投資の増加、新型コロナウイルス感染拡大に起因する費用などが影響しました。新型コロナウイルス感染拡大による営業利益への影響は、販売台数の減少や部品代替輸送などの追加コストが発生し、合わせて約100億円とみえています。当期純利益は繰延税金資産の一部取崩し影響などにより対前年81%減の121億円となりました。

2. 新型コロナウイルス感染拡大への対応状況を教えてください。

3月以降新型コロナウイルス感染が世界的に拡大したことを受け、各国での経済活動の規制や外出禁止等の感染拡大防止措置により、当社でも販売店の閉鎖など販売活動に大きな影響がでました。4月以降の販売減を踏まえ、一時的に増加した在庫を適正な水準に戻すために生産調整を実施しました。各国の状況を注視しながら、今後の需要回復期に備え、販売・出荷・在庫・生産の計画を柔軟に見直します。

3. 2021年3月期の見通しを公表しなかった理由を知りたい。

新型コロナウイルスの感染拡大による影響や収束時期など、先行き不透明な状況は継続する見通しで、販売や業績への影響を慎重に見極めていく必要があります。したがって本日は2021年3月期の業績および配当見通しの公表を差し控えました。今後、各国の経済活動状況や販売店の営業状況、販売台数の回復状況を確認しながら、可能となった時点で速やかに公表させていただきます。

4. 中期経営計画の施策や目標、中長期の方針に変更はあるのか。

当社では2019年11月に中期経営計画を公表し、主要施策に取り組んでいます。グローバルでの需要縮小や新型コロナウイルスの感染拡大など事業環境が大きく変化していますが、中期的に取り組む方針に変更はありません。一方で、戦術、規模やタイミングについては調整していきます。最優先事項として手元流動性の確保を進め、また、設備投資についても規模やタイミングを調整していきます。

新型コロナウイルス禍において一部進めている中期的な固定費構造の見直し、回転率を考慮した在庫管理は継続強化していく考えです。そしてグループ全体でブランド価値の向上や稼ぐ力の強化に取り組んでいます。

以上